

《中日新聞（朝刊）》

〈学生之新聞〉

〔15〕 大 学 生 12 版

2006年(平成18年)12月19日(火曜日)

八、九月の二カ月間、能力不足を痛感させられドイツのバイエルン州コーブルグ市にある大手自動車部品メーカー「ブローゼ社」でインターンシップをした。名古屋工業大とブローゼ社の協議によって今年から始まり、プログラムの第一号として参加した。

ドイツ

会社では開発部門に所属し、新製品に用いられる金属材料についての業務を担当。自動車シートやドアに使われる材料の規格について調べた。ドイツでの日常生活は不自由なくすごすことができたが、仕事では英語でのコミュニケーション

姿は、大学の研究室に長時間滞在しながら、他の学生との深い議論が少なかった私にとって非常に参考になった。

地元ドイツをはじめ、アメリカ、フランス、イなどのイベントが、毎週のように開かれていた。イベントには積極的に参加して、ビールを飲みながら互いの国の文化について話し合い、充実したドイツ生活を送った。

海外でのインターンシップは、就職活動はもちろん、大学で研究を進める上でも参考になることが多かった。（名古屋工業大工学研究科博士前期課程一年、門脇聡）

オフィス内で議論



研修先企業の社員らと筆者（右から2番目）

